

杉山 博(禿山) 先生略年譜

〔出生より大学卒業まで〕

数え年

一九一八(大正 七年)

1歳

八月 四日

神奈川県足柄下郡小田原町十字町三丁目^に生る、海軍軍人杉山傳一郎の次男、母は久子、小田原在住は、伯父阿部宗孝の縁故による。

一九二三(大正一二年)

6歳

九月 一日

関東大震災により、兄修を失い、東京市外大久保百人町に転居。

一九二五(大正一四年)

8歳

四月 一日

東京府豊多摩郡大久保町戸山尋常高等小学校に入学。大内力氏と同級。

一九二六(大正一五年)

9歳

九月 一日

広島県呉市呉尋常高等小学校に転校。

一九二七(昭和 二年)

10歳

一月 一日

朝鮮鎮海公立尋常高等小学校に転校。

一九二八(昭和 三年)

11歳

九月 一日

台湾澎湖庁馬公尋常高等小学校に転校。

一九三〇(昭和 五年)

13歳

四月 一日

長崎県佐世保市潮見尋常高等小学校に転校。

一九三一(昭和 六年)

14歳

三月二〇日

潮見尋常高等小学校を卒業。

東京府立第六中学校に入学、校長は伯父の阿部宗孝。大久保百人町に居住。

一九三六(昭和一一年)

19歳

二月一〇日

杉並区浜田山(上高井戸四一八四二)に転居。

二月二六日

二・二六事件おきる。

三月 六日

東京府立第六中学校を卒業(第一〇回生)。

一九三七（昭和二年）

20歳

四月一日 東京府立第六中学校補修科に入学。

三月六日 同校補修科を修了。

四月一日 国学院大学予科乙組に入学、甲組に秋末一郎・太田朝男・角川源義

らが入った。「葱坊主日記」をつけはじめた。

一九三九（昭和十四年）

22歳

三月二〇日

予科修了。親睦誌「文垣」（全8号）を編集、あさね（1）・れんげ草（2）・とんとん風（3）・シオンの花（6）・ほうづき（7）などをつくる。

四月一日 国学院大学学部国史学科に入学。

一九四一（昭和十六年）

24歳

一月八日

真珠湾攻撃を国学院大学の教室で聞く。

一月二六日

国学院大学学部国史学科を卒業。卒業論文は「中世末期に於ける夫役に就いて——大和大乗院領を中心として」主査高柳光寿・副査渡辺世祐の両先生。徴兵検査を受け甲種合格となる。

〔軍隊時代〕

一九四二（昭和十七年）

25歳

二月一日

近衛野砲兵聯隊補充隊（世田谷区三宿）に現役兵として入営。

一〇月二八日 豊橋予備士官学校を甲種幹部候補生として卒業。

一月一日 野戦重砲兵第25聯隊（世田谷区三軒茶屋）に転属。

一九四三（昭和十八年）

26歳

六月五日

戦砲兵第12聯隊（仙台市川内）に転属、壬生隊に入り、青葉山高射砲隊の勤務となる。

一九四四（昭和一九年）

27歳

一二月 一日 現役満期除隊、陸軍砲兵少尉に任ぜられ、即日臨時召集となる。

一二月 一七日 野砲兵第2聯隊に転属のため、一八年徴集の初年兵五百名とともに、門司港出帆。バンコックを経てビルマに向う。

二月 六日 ビルマ国ヘンサダに到着、聯隊本部付となる。タラワジに移る。

八月 一日 迫撃砲第10中隊（後藤隊）の小隊長となる。

八月 二六日 断作戦参加のため、緬支国境を通過して雲南省に入る。

八月 三〇日 雲南省竜陵に到着、歩兵第16聯隊に配属を命ぜられ、断作戦に参加。

一〇月 八日 緬支国境通過、再びビルマに入り、原隊復帰を命ぜられる。

十一月 二一日 ミヨラ到着。

一九四五（昭和二〇年）

28歳

二月 二四日 明号作戦参加のため、緬泰国境を通過、タイ国に入る。

三月 四日 泰・仏印国境通過、歩兵第29聯隊第2大隊（原田隊）に転属。

三月 九日 明号作戦に参加、コンポンクナンで歩兵援護。

三月 二二日 中隊長後藤清一氏戦病死し、第10中隊の責任者となる。

四月 二〇日 陸軍砲兵中尉に任ぜられる。

五月 一日 原隊復帰を命ぜられ、仏印西貢（サイゴン）に到着。シヨロンにて陣地構築を行う。

八月 一日 野砲兵第2聯隊第4大隊第10中隊が新編成となる。大隊長矢部尚

一、中隊長大川余一の諸氏。

八月 一五日 終戦。武装無解除のまま、ゲリラ掃蕩作戦を英軍と合同して行う。

一九四六（昭和二十一年）

29歳

二月一日

英軍により武装解除される（仏印ツドック）。ゴム林雑草取りとゴムの搬出作業に従事する。

四月二三日

杉山混成中隊の乗船待機所の入所を命ぜられる（一六〇名）。

五月一日

仏印サイゴン出港（大隊本部・第10・11・12中隊・大隊段列・高射砲第1中隊）。

五月一日

広島県大竹港に上港。翌一二日復員完結。召集解除となる。

〔史料編纂所時代〕

一九四六（昭和二十一年）

29歳

九月二六日

国学院大学図書館司書となる、（月俸百円）館長は岩橋小弥太先生。東京帝国大学史料編纂所嘱託となる、（月俸五百三十円）六編部に配置。

一九四七（昭和二十二年）

30歳

九月一五日

配置。

一九四八（昭和二十三年）

31歳

一〇月七日

目録索引部に配置換えとなる。

一九四九（昭和二十四年）

32歳

八月二九日

前田美智子と結婚、杉並区下高井戸に居住。

一九五〇（昭和二十五年）

33歳

八月一八日

長男和紀誕生。

九月三日

杉並区上高井戸に移転、父母と同居する。

一九五二（昭和二十七年）

35歳

一月一日

史料調査部に配置換えとなる。

一〇月七日

練馬区江古田町に移転。

一九五三（昭和二十八年）

36歳

一一月三〇日

長女香代子誕生。

一九五六（昭和三十一年）

39歳

六月一日

練馬区春日町に移転。

一九五七（昭和三二年） 40歳

四月一日 千代田区史編纂嘱託となる。

一九五九（昭和三四年） 42歳
一〇月一日 東京大学助手に配置換えとなる（5級13号俸給二万三千六百円）。

一九六〇（昭和三五年） 43歳
一二月一日 静岡大学文学部講師となる（三六年三月まで）。

一九六〇（昭和三五年） 43歳
四月一日 東京教育大学文学部講師となる（三七年三月まで）。

七月一七日 父傳一郎没す。

一九六二（昭和三七年） 45歳
三月一日 東京都府中市史編集委員となる。

一九六三（昭和三八年） 46歳
四月一日 立教大学文学部講師となる（三九年三月まで）。

一九六四（昭和三九年） 47歳
八月五日 糖尿病を宣告される。

一九六五（昭和四〇年） 48歳
四月一日 練馬区文化財資料調査員となる。

一九六六（昭和四一年） 49歳
四月一日 東京大学助教授に昇任（2等級12号 俸給六万九千円）。

立教大学文学研究科講師となる（四二年三月まで）。

一九六九（昭和四四年） 52歳
四月一日 藤沢市史編纂委員となる（五〇年三月まで）。委員長は児玉幸多先

生。

一九七〇（昭和四五年） 53歳
四月一日 立教大学文学部講師となる（四七年三月まで）。

一九七一（昭和四六年） 54歳
一二月一日 埼玉県立博物館資料評価委員を委嘱される。

一九七二（昭和四七年） 55歳
四月一日 東京大学教授に昇任（1等級13号 俸給一四万八千二百円）。

九月五日 栃木県佐野市史編纂専門委員会委員長に選任される。

一二月二〇日 富山大学文学部講師となる（四八年三月まで）。

一九七五（昭和五〇年） 58歳
五月一五日 小田原市文化財保護委員となる。

一九七六（昭和五一年）

59歳

一〇月二七日 畏友角川源義君没す。

一月二〇日 小田原文庫刊行会代表となる。

四月 四日 東京大学教授を辞職（1等級17号 俸給二八万六千四百円）。

〔駒沢大学時代〕

一九七六（昭和五一年）

59歳

四月 五日

駒沢大学文学部教授を命ぜらる（学長は岡本素光先生）（1等級29号 俸給二九万四千二百円）。

四月 五日

大学院人文科学研究科日本史学専攻博士課程教授を委嘱される（総長は岡本素光先生）。

一九七七（昭和五二年）

60歳

五月 一三日

角川「日本地名大辞典」の編纂委員となる（委員長は竹内理三先生）。

二月 二七日

母久子没す（歿年八二歳）。

五月 一五日

小田原市文化財保護委員を委嘱される（同市教育委員会）。

五月 二五日

「東京にふる里をつくる会」の世話人代表となる。

六月 一五日

埼玉県史専門委員会委員を委嘱される（知事は畑和氏、委員長は小野文雄先生）。

一九七八（昭和五三年）

61歳

一月 一日

埼玉県立博物館資料評価委員を委嘱される（五四年一月三十一日まで）。

四月 一日

神奈川県厚木市史編纂委員を委嘱される（市長は石井忠重氏）。

四月 一日

深谷市史編纂会顧問を委嘱される（市長は小泉仲治氏）。

四月一日 茨城県下妻市史編纂委員会専門委員を委嘱される。

七月二七日 六郷会合同還暦記念会に出席する(四五名出席)。

十一月二五日 永原慶二・所理喜夫・佐脇栄智の三氏発起人代表となり九段会館にて還暦記念会を開催(参会者一五三名)。

一九七九(昭和五四年) 62歳 六月一日 小田原市文化財保護委員会委員を委嘱される(五六年五月三十一日まで)。

一九八〇(昭和五五年) 63歳 一月一日 埼玉県立博物館資料評価委員を委嘱される(五六年一月三十一日まで)。

一九八一(昭和五六年) 64歳 六月一日 小田原市文化財保護委員会委員を委嘱される。

一九八二(昭和五七年) 65歳 八月一日 東京都文化財保護審議会委員を委嘱される(五九年七月三十一日まで)。

一九八三(昭和五八年) 66歳 四月一日 厚木市史編集委員会委員を委嘱される(市長は足立原茂徳氏)。

四月一日 埼玉県史専門委員を委嘱される(六〇年三月一日まで)。

一九八四(昭和五九年) 67歳 六月一日 中村質氏の学位申請論文の審査員副査を委嘱される(総長は桜井秀雄先生)。

七月二日 足立区立郷土資料館の開設準備委員を委嘱される(足立区教育委員会)。

八月一日 東京都文化財保護審議会委員を委嘱される(六一年七月三十一日まで)。

一九八五(昭和六〇年) 68歳 四月一日 大学院人事委員会委員を委嘱される(六二年三月三十一日まで)(総長は桜井秀雄先生)。

四月一日 大学院人文科学研究科日本史学専攻主任を委嘱される（総長は桜井秀雄先生）。

四月一日 埼玉県史専門委員を委嘱される（知事は畑和氏）（六二年三月三十一日まで）。

六月二五日 板橋区文化財保護審議会委員を委嘱される（板橋区教育委員会）。

九月一九日 広瀬良弘氏の学位申請論文（禅宗地方展開史の研究）の審査委員（主査）を委嘱される（総長は桜井秀雄先生）。

一九八六（昭和六一年） 69歳 八月一日 東京都文化財保護審議会委員を委嘱される（六三年七月三十一日まで）。

十一月一日 足立区立郷土博物館長となる。

一九八七（昭和六二年） 70歳 四月一日 大学人文科学研究科日本史専攻主任を委嘱される（学長は桜井徳太郎先生）。

六月二五日 板橋区文化財審議会委員を委嘱される（委員長は桜井徳太郎先生）。

八月二〇日 足立区伊興遺跡調査会の理事を委嘱される（会長八木幸男氏）。

一〇月一六日 久保田真継（昌希）氏の学位申請論文（戦国大名今川氏の基礎的研究）の審査委員（主査）を委嘱される（学長は桜井徳太郎先生）。

一二月二四日 練馬区石神井城址調査会委員を委嘱される（教育長は下田迪雄氏）。

一九八八（昭和六三年） 71歳 三月三十一日 大学院人文科学研究科日本史学専攻主任の委嘱を解かれる（学長は桜井徳太郎先生）。

六月一〇日 六郷会合同古稀記念懇親会（於私学会館）に出席する（四〇名出席）。